

11月
学校だより

＝板宿小学校教育目標＝
心豊かに 学び合い、
たくましく生きる 板宿の子

いたやど



令和6年11月
神戸市立板宿小学校
<https://www.kobe-c.ed.jp/ity-es/>

「あいさつ」「感謝」「挑戦」

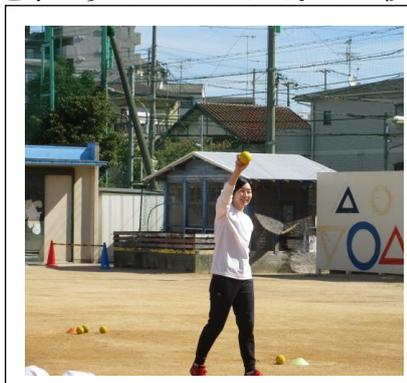
秋麗の候。秋晴れの陽気が心地よい頃となりました。音楽ホールからは子供たちの奏でる音色や重なる歌声が響いてきます。11月2日の音楽会が楽しみです。

先日トップアスリート派遣事業で東京オリンピック2020の金メダリスト渥美万奈（あつみまな）選手が出前授業の講師として6年生の子供たちの前に立っていただきました。

渥美万奈選手はソフトボールの選手で2018アジア大会金メダル、2016、2018世界選手権銀メダルを獲得しました。そして2021年東京オリンピック2020の決勝という大舞台で“神ゲッター”で優勝し夢をかなえ引退。その後はソフトボールの魅力を伝える広報活動や後進を育てる活動をされています。渥美選手の口から“神ゲッター”と出たとき、「あ、あ、あのスーパープレイのあの人や！」と一気に興奮モードになり、あの日、日本の金メダル獲得と同時に渥美選手の“神ゲッター”が日本のメディアを席巻したことを思い出しました。



渥美選手はソフトボールの盛んな静岡県の出身で小学校4年生の時に2人のお兄さんの影響で始めました。そして北京オリンピックのソフトボール競技の金メダルを見て「日本のソフトボールは世界に通用しメダルが獲れる。わたしもメダルを獲りたい。」と思うようになり、これが渥美選手の夢となりました。その後人生の節目では「ソフトボールができる」を第一に選択し、高校を



を経て社会人となり実業団の選手となりました。しかし、そこでは3年間試合に出られない日々が続きました。そんなうまくいかない毎日に「やめたい」→「やめる」→「でも、何をやる？」の考えがぐるぐる巡りました。でも、ある日「できるまでがんばろう」の考えに行き着き、基本に戻って先輩と基礎練習を7年間続けました。そして次第に結果が伴うようになり、チームでレギュラーを獲り、日本代表にも選ばれました。このつらかった数年を「支えてくれた人がいたからがんばれた。」とふりかえり、これが“神ゲッター”に、夢である「金メダル」に繋がりました。

渥美選手はソフトボールが教えてくれたことは「あいさつ」「感謝」「挑戦」の3つだと話します。「あいさつ」は人との信頼関係をつくっていく、心の扉を開く鍵。「感謝」は支えてくれる人へ、背中を押してくれる人へ大切な感謝を伝えるための勇気を出すきっかけ。「挑戦」はできないことに挑戦し、新しい発見をする。できないことができるようになる。とご自身が感じたことをふりかえりました。最後にこれからそれぞれの人生にむけて巣立とうとする6年生に「1人でも2人でも、自分の背中を押してくれる人、支えてくれる人を見つけてほしい」と話されました。「夢をかなえること」にむけての努力・苦悩を聞かせていただいたことは、子供たちにとってとても貴重な時間だと感じました（お話の後、金メダルを出されたときは子供たちも大興奮でした…）。

今月もこれまで同様、保護者の皆様、地域の方々のあたたかいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校長

下校時刻変更のお知らせ

① 完全下校

11月から完全下校時刻が16時になります。ふれ図書・放課後遊びも16時までとなります。

② 11月21日(木)は就学時健康診断が予定されています。1～3年生は給食を食べてから13:30頃下校します。

③ 11月27日(水)午後より、須磨東区域別学校園人権推進協議会に本校職員が参加します。そのため、全学年給食後 12:50 に下校します。